

2014年度 後期		リフレクションペーパー					
学科名	生物環境化学科						
科目名	環境と生物						
科目区分	人間形成科目	単位数	2単位	開講時期	2年次後期		
必修・選択の別	選択(バイオサイエンスコース)、選択(食品生物資源コース)、選択(エネルギー・環境コース)						
担当者	菅野憲一						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞の構造、真核細胞のオルガネラの働きを例を挙げて説明できる。 ・遺伝情報のながれやATP合成などの生体内で起こっている反応を説明できる。 ・恒常性を維持するホルモンや身を守る免疫、外的となるウイルスを例示して説明できる。 ・食物網、生物濃縮、富栄養化、植物群落の分布や遷移、物質の循環を説明できる。 ・生物多様性、生態系サービス、侵略的外来種を説明できる。 						
日程と内容	9/16 第1回：導入講義、様々な生物。 9/30 第2回：生体分子の構造と機能。 10/ 7 第3回：真核細胞。 10/21 第4回：遺伝情報。 10/28 第5回：生命のエネルギー。 11/ 4 第6回：ホルモン。 11/11 第7回：免疫系とウイルス。 11/15 第8回：植物群落、垂直分布、水平分布。 11/18 第9回：第7回までのまとめ(小テストを含む) 11/25 第10回：群落の遷移。 12/ 2 第11回：生態系、食物網、生物濃縮、富栄養化。 12/ 9 第12回：物質の循環。 12/16 第13回：生物多様性。 1/13 第14回：進化。 1/20 定期試験 1/27 第15回：環境の保全と賢明な利用						
成績評価基準	定期試験	60%	実技	0%			
	臨時試験	40%	部外評価	0%			
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%			
	課題	0%					
	演習	0%	計	100%			
授業到達目標の達成度	<p>ここ数年の受講者数が、200名強、90名強、159名、139名、本年度158名と人数にバラつきがあるものの多くの履修者を受容れての講義となった。到達目標に掲げられた項目は、臨時試験および定期試験において試験される。その結果、99%という高い合格率でありかつ、定期試験および臨時試験を受験した履修者の平均点は85点と高得点であったことから、到達目標を達成しているものと考えられる。</p>						
反省点	<p>パワーポイントを用いた講義を充実し、前年度よりもさらに写真や資料をつけ加えた。また、後半の生態系などの回には生物多様性条約事務局や環境省などの資料を取り入れることで実社会で役立つよう工夫した。1101教室での開講ではあったものの、受講者の協力により、静粛な授業環境を維持できた。本年度からmoodleを利用した演習を開始した。</p>						
来年度の計画	<p>ESDの10年の最終年度、ポスト2015年開発目標、IPCC5の公表など様々な関連するトピックスを盛り込んで講義のさらなる充実を行う。</p>						
授業評価アンケートに対するコメント	<p>総合評価は8.5であった。次回も反省点を改善し、よりよい学習環境を目指します。</p>						
履修登録者数	158名	定期試験 受験者数	142名	合格者数	140名	合格率	99%